

森林センター林業技術研修会

日 時：平成 24 年 7 月 23 日（月） 13.30～16.30

場 所：滋賀県森林センター（野洲市北桜）

出席者：影山 更家 田畑 藤田

所感：

1. 内容は滋賀県森林センターの平成 23 年度の活動実績報告である。
2. 「里山再生に向けた特用林産物」つまりキノコの開発状況が紹介された。ホンシメジを市場に送り出した実績をもつ研究者から、今度はバカマツタケの研究である。3 年以内に成功する可能性が示された。味も香りも本物のマツタケとそっくりであるとか。
3. 「琵琶湖の水源」として、降った雨がどれだけ森で保存され、どれだけ流れ出すか。花崗岩と古生層でどう違うかなど、興味深い研究成果が紹介された。
4. 「環境林植生経年調査」県下の各所に実験場所を設けて、長年にわたって研究を続けている。どこから種子が飛来してくるか。シカに食べられないような工夫をして研究をしている。
5. 「ナラ枯れ被害調査」まだ実態がよくわかっていない部分もあるが、コナラなどの薪としての利用がなくなってから、松枯れに代わって広がって来たと思われる。今後は燃料などとして活用する方法を考えながら対策を進めなければならない。
6. 50 人ほどの参加者はかなり熱心に質問などもしていた。森林を守り育てることの重要性を改めて確認できた研修だった。

（文責 田畑）

以上